

B—16 植物染料の染色に関する研究  
—染色方法による色調差と  
染色堅ろう度について—

福岡学芸大 田中 登美

1. 植物染料の染色は、同じ染料、媒染を使用しても、(イ)染色を先にするか、媒染を先にするかによって色調が異なる場合があり、(ロ)媒染で終るか、染色で終るか

によっても、同様なことがいわれている。これらの場合の色調のちがいを調べ、染色布の染色堅ろう度を検討した。

2. カテキュ、ログウッド、楊梅、くぬぎ、矢車付子、げんのしょうこ、五倍子、くちなしを用い、媒染剤は明ばん、硫酸第1鉄、重クロム酸カリ、硫酸銅を使用して、上記(イ)(ロ)の染色をした。試料布は綿布を用い染色、媒染とも室温。(イ)は1回染め、(ロ)は8回染めを行なった。堅ろう度は、JISの染色物堅ろう度試験方法により、摩擦、水、洗たく、日光に対する堅ろう度を検討した。

3. (イ)の場合の色調は、くぬぎ以外は全部異なり、色相の異なるものが相当見られる。(ロ)は色調の差は殆んど見られない。摩擦堅ろう度は、ログウッドが各媒染とも低い。耐水性は、くちなしの堅ろう度が低い。カテキュ、ログウッドは重クロム酸カリ媒染を除き汚染度大。重クロム酸カリ媒染は各染料とも堅ろう度高く、硫酸銅媒染は、くぬぎを除き汚染度が大。洗たく堅ろう度は、くちなしの変退色甚しく、五倍子、カテキュは媒染により堅ろう度の低いものがある。耐日光性は、全般的に優秀とはいえない。五倍子の8回染めが各媒染ともよく、矢車付子、五倍子の硫酸銅媒染がよい。染色堅ろう度は、1回染めと8回染めの間に殆んど差異は見られない。